

識者に檄す

る時には、速記文字化の大理想が決して空想にはあらずして、今や文字界の現状は、正に、速記文字化の大理想に向つて進みつゝある道程にあることを斷言してはゞからないのである。



世の中には、政治外交の問題であるとか、あるいは思想上の問題であるとかゆうような問題なごについては、熱狂の餘り、よく流血の慘事をも敢て辭せない人々があるが、今や國民これを閑却し、國民これを輕視して居ながら、實は國家百年の大計たるべき文字上の諸改善問題についてもまた全國民はひとしく、その尊い愛國の熱淚、尊い憂國の熱血を振りそゝぐべきではなからうかと思ふのである。

あゝ實に、速記文字は文明の晴雨計である！

文明の進歩と並進すべきものである！

いな、文明の大先驅者なのである！

しかして總ての人々が平等にその惠澤に浴すべきものであるが、見よ！ 僅か數十名の速記者あるがためにわが帝國議會はその重要な議事録を編成せられ、僅か數名の速記者あるがために全國の大新聞は驚くべき大敏速さを以て報道の使命を果しつゝあるにあらずや！